様式Ｆ－１９

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成２４年　６月　２０日現在

機関番号：１７４０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2011　～　2011
課題番号：23652085
研究課題名（和文）　和製漢字の中国語読音について

研究課題名（英文）　A Study on the Chinese Way of Reading the Japanese-made Chinese Characters

研究代表者
千島　英一　（CHISHIMA　EIICHI）
熊本大学・大学院社会文化科学研究科・教授
研究者番号：20167513

研究成果の概要（和文）：
本研究は、一般に和製漢字と呼ばれている日本で作られた漢字について、中国語音ではいったいどのように発音したらよいかを研究対象としたものである。従来、ごく一部の文字を除き、和製漢字の多くが中国で出版されている辞典にも、日本で出版されている中国語辞典にもなんら記載がなく、教学上、学習上の両面において、悩ましい問題の一つであったからだ。本研究ではこうした和製漢字の一つ一つにもっとも適切と思われる中国語音を付与することを目的としたものである。

研究成果の概要（英文）：

This study focused on how to pronounce kanji made in Japan by using Chinese sound. Except a few letters, most of kanji made in Japan have not been mentioned at all in Chinese dictionaries published in Japan as well as ones published in China. Therefore, it has remained a problem to be solved from both educational and academic perspectives. The purpose of this study was to provide each such kanji with the most appropriate Chinese sound.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
交付決定額	500,000	150,000	650,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：言語学・言語学
キーワード：文字学、和製漢字、中国語辞典、中国語読音、駅、峠、簡略化、広東語音

１．研究開始当初の背景

数年前から香港のネット上を賑わせている文字に「駅」という文字がある。香港のディベロッパーが“都會駅”という名前の高層住宅を売り出したことが発端。香港の地下鉄構内のあちこちに大きなポスターが貼られていたので目立つことこの上なく、しかも発音に広東語音で zhaam6 すなわち、中国語で「ステーション」意味する“站”の字音をあててのいわゆる訓読。日本なら何の変哲もない文字ですが、この字を見慣れていない多くの香港人にとっては、なんとも奇妙な文字で

あり、音読なら「馬」と読むのか、それとも「尺」と読むのか、子供から大人までを巻き込んでの議論百出。そのうちに識者が「駅」は「驛」の日本式の簡略字であり、字音は当然「驛」と同じく yì であることを指摘し、落着したようである。これは日本の略字と中国語の簡体字の簡略の仕方が異なる（“砿”の中国の簡略化は“嘩”である）ことから生じたことであるが、「駅」は「驛」のように本字があることから、本研究で言う和製漢字には含まれない。すなわち新井白石が定義したように和製漢字とは「本朝にて造れる異朝の字書に見えぬをいう」からだ。では「異朝の字書に見えぬ」文字とはいったいどんな文字であろうか。それが前述した「栃」や「峠」、「粂」、「栂」といった文字である。こうした文字、使用は日本だけに限られるかと思うと、豈図らんや、である。

台湾南東部の地図を見ていると“壽峠”という地名があり、SHOU KA とローマ字表記があるのに気付く。また、別の台湾全土の地図を見ると、同じ場所が“壽峙”と記されている。おそらく、印刷所に「峠」という文字がなかったため似通った文字を当てた誤記であろう。ちなみに、日本の植民地時代の台湾地図にも、ここの地名ははっきりと“壽峠”と載っており、その時代には「コトブキトウゲ」と発音したものと思われる。SHOU KA という現在のローマ字表記は「峠」の旁の「遥」が現代中国語の“卡”（“kǎ”と発音する）と形が似ているため“kǎ”の音をあてているものと思われる。「遥」を用いた和製漢字には、その他にも「裃」「県」「擧」といろいろあるが、これらもすべて“kǎ”と発音させるのであろうか。これまでの和製漢字の研究はわが国の国語学研究の一環としての研究であったため、和製漢字に中国音をどう付与すべきかといった研究についてはきわめて乏しく、漢字文化圏における和製漢字の位置づけならびにその中国語読音の研究については緒についたばかりと言ってよいだろう。

申請者は中国語方言のひとつである広東語研究を進め、その言語構造を解明するとともに、広東語辞典として出版してきた。そうした折り、日本の県名である栃木県の「栃」も和製漢字であり、中国語読音が定まっていないことに気付いた。中田祝夫は『日本語の世界４　日本の漢字』(1982) のなかで、「栃」の字の起源と変遷に焦点をあてて、その成立を詳しく記述している。それによれば、「栃」の字は明治以前にはなく、「杤」や「橡」、「杼」、「栩」等と複数の表記で記されていたが、明治になってからそれまで正字とされていた「杤」に代わって「栃」が正字となってしまい、「栃」は「櫪」の略字だとして、「栃」音レイ、訓トチにしてしまった。

しかしながら、「櫪」の簡略字は無く、断じて「栃」でもない。元来、和製漢字であるから「栃」の字には「レイ」などといった字音などあるはずがない。にもかかわらず、現在、栃木県は「レイ」の字音から類推し、中国語では一般に Lìmùxiàn と呼ばれている。はたしてこれでよいのであろうか。申請者はこのようなことでは、和製漢字までもが中国の流儀に従属されてしまうと考え、大いにこれを危惧するものであり、漢字はいったい誰のものかということも含めて、本計画着想に至った。

しかしながら、上述した危惧は現実のものとなりつつある。昨年末、中国の教育部語言文字信息管理司が「日本汉字的汉语读音规范(草案)」(日本漢字の中国語読音規範)として、使用頻度が比較的高いとされる和製漢字 32 字に対して普通話音（標準中国語音）を付し、『中国語言生活緑皮書』(2009. 語文出版社)

の中の１篇として公表した。この中には前述した「栃」も「峠」もそれぞれ“lì”と“kǎ”の注音がなされている。中国語には“約定俗成”（ならわしが公認される）という言葉がある。この問題をこのまま放置しておけば、いずれは誤りが誤ったままで公認されるということになってしまうので、なんらかの是正措置が必要である。そこで申請者は中国や台湾、香港の研究者とも情報を交換しながら、和製漢字の中国語読音は日本人が定めることと位置づけし、内外に提案したいと思料している。

２．研究の目的

本研究の目的は、前述したように和製漢字（すなわち、日本で作られた漢字）とされている「栃」や「峠」、「粂」、「栂」といった文字を中国語音（さらには広東語音）ではいったいどう発音したらよいかを研究するものである。というのも、ごく一部の文字を除いて、和製漢字の多くは中国で出版されている辞典にも日本で出版されている中国語辞典にも何ら記載がなく、中国人に日本語を教えている人あるいは日本人に中国語を教えている人双方にとって、これまでずっと悩ましい問題のひとつであったからである。そこで、本研究では和製漢字ひとつひとつにもっとも合理的と考えられる中国語音を付し、文字情報の国際化に即応させることを目的とした。

３．研究の方法

本研究は日本語学ならびに中国語学の一分野である文字学に貢献することを目標として、和製漢字の中国語読音に対象を絞り文献研究と現地調査を進め、合理的な中国語読音を明らかにしていく。具体的な研究項目は以下のとおり。

［１］文献研究

これまでに出版された国内外の中国語辞書において和製漢字の収録の有無を調査し、併せてその読音についても調査する。

［２］海外にあって和製漢字が地名に使われている個所を調査（具体的には台湾を考えている）し、併せて

［３］和製漢字の中国語読音の提案を行う。

文献調査及び現地調査の成果をもとに、和製漢字の中国語読音を定め斯界に提案するものとする。

［４］前項の成果をもとに併せて和製漢字の広東語音についても定め、これを公表する。

４．研究成果

研究成果としてすでに論文１本を発表。また、２０１２年１１月に台湾で行われる学会で「丼の中国語字音について」と題した口頭発表を行う予定。

先ず、論文を出したことにより、国内外より大きな反響が得られた。というのも、東アジ漢字文化圏の諸地域では、日本との交流が進展するにつれ、わが国のさまざまな文化情報が大量に流入し、その中には多くの和製漢字が含まれており、その読音については多くの人の頭を悩ませていたからである。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　１件）

①<u>千島　英一</u>　＜「栃」の中国語音は lì それとも xiàng？――和製漢字の中国語音をめぐって＞『東方』（第 366 号）2011 年．8 月．東方書店．p.7-9.（依頼原稿、査読なし）

〔学会発表〕（計　０件）

６．研究組織

(1)研究代表者

千島　英一　(CHISHIMA　EIICHI)

熊本大学・大学院社会文化科学研究科・教授

研究者番号：20167513

(2)研究分担者

（　無　）

研究者番号：

(3)連携研究者

（　無　）

研究者番号：